

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

学校名	公立大学法人福井県立大学
設置者名	福井県

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
経済学部	経済学科	夜・通信	127	138	0	265	13	
	経営学科	夜・通信			0	265	13	
生物資源学部	生物資源学科	夜・通信		0	36	163	13	
	創造農学科	夜・通信		0	79	206	13	
海洋生物資源学部	海洋生物資源学科	夜・通信		0	49	176	13	
	先端増養殖科学科	夜・通信		0	26	153	13	
看護福祉学部	看護学科	夜・通信		0	122	249	13	
	社会福祉学科	夜・通信			115	242	13	
恐竜学部	恐竜・地質学科	夜・通信		0	34	161	13	
地域政策学部	地域イノベーション学科	夜・通信		0	2	129	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.fpu.ac.jp/campus_life/prospective_students/d154018.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

学校名	公立大学法人福井県立大学
設置者名	福井県

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.fpu.ac.jp/about/trustees.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(株)ミツヤ 代表取締役会長	R7年4月1日 ～ R10年3月31日	大学運営全般
非常勤	(株)福井銀行 取締役会長	R7年4月1日 ～ R10年3月31日	大学運営全般
非常勤	神戸芸術工科大学 副学長	R7年4月1日 ～ R10年3月31日	大学運営全般
非常勤	(株)福井新聞社 代表取締役社長	R7年4月1日 ～ R10年3月31日	大学運営全般
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	公立大学法人福井県立大学
設置者名	福井県

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

・教育研究委員会にて、シラバス作成ガイドラインを審議

10～11月

教員にシラバス作成依頼

2月上旬

シラバス作成期限

4月

大学ホームページに掲載

授業計画書の公表方法	大学ホームページ (https://cx.fpu.ac.jp/campusweb/slbssrch.do)
------------	---

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

・授業科目の単位修得の認定は、試験の可否によって行う。試験は主として筆記試験によって行われるが、実験、実習やレポート提出等により行われる場合もある。

・なお、出席時間数が、当該授業科目の全時間数の3分の2に満たない場合には、原則として、単位は与えられない。

・試験の成績は、100点満点の60点以上を合格とし、授業科目所定の単位が与えられる。成績評価と点数の関係は、次のとおり。

判定	達成度	評点
優	科目の到達目標に十分達している	80点以上
良	科目の到達目標に達している	70点以上80点未満
可	科目の到達目標に最低限度達している	60点以上70点未満
不可	科目の到達目標に達していない	60点未満
	履修辞退	評点なし

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- ・ 本学でのG P Aの計算式は次のとおり

点 数	G P	参考 (本学評価)
8 0 点以上	$\frac{\text{点数} - 55}{10}$	優
7 0 点以上		良
6 0 点以上		可
6 0 点未満	0	不可

$$G P A = \frac{\text{履修科目のG P} \times \text{単位数}}{\text{総履修登録単位数}} \text{の総和}$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

履修の手引き (オリエンテーション時に全学生に配布)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

- ・ 本学における卒業認定に関する方針の具体的な内容は以下のとおり
 本学に原則として4年以上在学し、別に定める授業科目を履修し、経済学部にあつては134単位以上、生物資源学部生物資源学科にあつては130単位以上、生物資源学部創造農学科にあつては124単位以上、海洋生物資源学部海洋生物資源学科にあつては124単位以上、海洋生物資源学部先端増養殖科学科にあつては124単位以上、看護福祉学部看護学科にあつては130単位以上、看護福祉学部社会福祉学科にあつては124単位以上、恐竜学部にあつては124単位以上、地域政策学部にあつては124単位以上を修得した学生については、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。
- ・ 本学では、上記卒業認定に関する方針により、学生の修得単位数や教授会の意見を基に、卒業を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学ホームページ
 (https://www.fpu.ac.jp/about/d154739_d/fil/06010.pdf)
 履修の手引き (オリエンテーション時に全学生に配布)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

学校名	公立大学法人福井県立大学
設置者名	福井県

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.fpu.ac.jp/about/finance.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.fpu.ac.jp/about/finance.html
財産目録	
事業報告書	http://www.fpu.ac.jp/about/finance.html
監事による監査報告(書)	http://www.fpu.ac.jp/about/finance.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: 第4期中期計画 対象年度: 令和7～12年度)
公表方法: http://www.fpu.ac.jp/about/plan.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.fpu.ac.jp/about/plan.html https://www.fpu.ac.jp/fd/fd.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.fpu.ac.jp/about/d152308.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	経済学部
教育研究上の目的（公表方法： http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html 入学者選抜要項等）	
(概要)	経済学部は、多様化し変動著しい現代の経済社会やそこにおける企業経営の在り方および法則、地域経済・企業や各国経済の特質等を明らかにし、あるべき経済政策および経営を追求する研究を推し進めるとともに、その成果にもとづき、経済・経営に関する専門的な知識を有し、情報活用能力・論理的判断力・国際的感覚を持った人材を養成すること、さらに研究成果そのものを地域社会のみならず広く社会へ開放することを目的とします。 特に教育については次のことに心がけて行います。 1. 研究に基づいて教育の水準を高く維持すること。 2. 教員自身が研究に打ち込む姿を学生に見せるとともに、その成果を学生に伝えるように努めること。 3. 学生の知識水準に注意を払い、学生が吸収しやすいよう教授法についても研究を重ねること。 4. 多様な学生の需要に応じるため、教員集団の多様性を保ち、学生に自発的な選択の余地を与えたとともに、個々の教員も多様な見方があることを示すよう努めること。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html)	
(概要)	経済学部は、経済学科または経営学科に 4 年以上在学し、以下に示す資質、知識および能力を培い、卒業に必要な所定の単位数以上を修得した学生に学位を授与します。 1. 経済の運動や企業の行動についての古今の学説を知り、社会科学についての教育を深め、経済社会の仕組みを知る。 2. 現実の経済・経営を分析する能力を持ち、政策について判断する力を身につける。 3. 自らの頭で考え、自らの進路を切り開くことができる自立した個人に成長する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html)	
(概要)	経済学部では、経済学・経営学における基礎的な理論を理解するとともに、一般教育において基礎科目として修得した情報処理能力の専門知識への応用、各国の経済事情など国際的感覚の養成に努めることにより、経済・経営の分野において顕著な「情報化」・「国際化」に的確に対応できる人材の養成を目指しています。このような教育を実現するために、次のような方針でカリキュラムを編成しています。 1. 1 年次向けに経済学・経営学を学修していく上で基本となる科目、2 年次向けに経済学・経営学関係の基礎的な理論等、3、4 年次向けに応用的な科目を配置し、体系的なカリキュラムを構築する。 2. 経済学科、経営学科とも「専門科目」、「専門関連科目」の 2 つの科目群からカリキュラムを構成し、専門性を高めると同時に、専門に関連する幅広い分野の科目を履修できるようにする。 3. 地域産業の発展に寄与することを目指すとともに、本県とのつながりの深いアジア諸国の経済・経営に関する科目を設け、特色あるカリキュラムを構築する。 4. 専門教育の中心の一つとして、2 年次前期に「基礎ゼミ」、2 年次後期に「外書購読Ⅰ」、3 年次に「演習Ⅰ」、4 年次に「演習Ⅱ」および「卒業論文」を設け、「ゼミナール方式」による一貫した少人数教育を実施する。 5. 学修成果の評価は、科目毎に成績評価の方法を設定し、シラバスに明示する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html 入学者選抜要項等、大学案内）
（概要） 経済学部は、次のいずれかに該当する学力のある学生を求める。 1. 高等学校で英語、国語、数学、理科、地理歴史・公民に関して十分な基礎学力を身につけた学生 2. 社会の仕組みや運動、企業の行動について興味を持ち、それらを知ることにより意欲的である学生 3. 経済学・経営学を学ぶことで、自分で考え自分で判断する力を身につけたいと考えている学生 4. 経済学・経営学について専門的知識を身につけ、それを将来就く職業に生かしたいと考えている学生

学部等名 生物資源学部
教育研究上の目的（公表方法：http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html 入学者選抜要項等）
（概要） 生物資源学部は、生物資源にかかわる諸領域において以下の教育研究活動を推進することにより、地域社会、日本、世界の産業と文化の発展に寄与し、もって人類の将来にわたる福祉の向上に貢献します。この使命を達成するために、次の三つの基本理念を掲げます。 1. 時代の進展に即応した学術文化の高度化の推進と、それに寄与できる人材の育成。特に、社会の多様な場で困難を解決し真の発展を図れる人材、持続可能な社会の構築において最新の専門知識と先端技術を用い適切な対処ができる人材を育てます。 2. 自主的な真理探究の精神、広い視野および豊かな創造力を有し、基礎的および専門的な知識と技術を備えた実践力ある人材の育成 3. 学術情報の地域社会への開放
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html）
（概要） 生物資源学部の教育目標に従い、次の素養・能力を身につけた学生に学士の学位を与える。 生物資源学科 地域や国際社会が抱える諸問題の解決に向けて、科学・技術の効用と社会や環境に与える影響を多面的に考え、自然との共存を図りつつ責任を持って生物資源を利用し、グリーン・デジタルなどの新興分野を含む、生物資源に関わる様々な業種で活躍するために、以下の素養を身につけます。 1. 倫理観・社会性：地域や国際社会が抱える諸問題を解決する技術を開発・提供するために、科学・技術が自然や社会に与える影響を多面的に考え、生物資源の利用に当たって、責任ある方向付けを行うために必要な基礎的素養。 2. 自然科学の基礎力：生物化学を幅広く理解し、それを応用するために必要な数学や情報科学と自然科学の基礎知識。 3. 専門能力：生物資源の資源採取・加工・利用や環境保全等のグリーンテクノロジーに関する専門知識ならびにそれを応用する上で必要な知識。 4. 情報活用能力：急速に発展するデジタル技術を用いて必要な情報を収集・解析し、問題を発見・解決したり、自分の考えを形成できる能力。 5. 課題解決能力：自然環境や社会の持続可能性に配慮するなど限られた条件の下で、生物化学にかかわる技術的な課題を設定・解決する能力、及び、課題解決に向けたグループワークのための対話能力と文章作成能力。

創造農学科

1. 専門能力：農業、食品業等における資材の調達、生産・加工、流通・消費について、地域資源の活用、脱炭素化、労力軽減・生産性向上等のイノベーションを推進し、豊かな生活を実現する上で必要な食・農・環境に関する知識・技術・経験を習得していると共に、経営戦略やマーケティング等を学び、経営感覚や新展開能力・開発能力を身につけます。
2. 情報収集能力・コミュニケーション能力：急速に変化する技術に対応するために必要な情報を収集でき、自らの考えを論理的に表現し議論するための対話能力と文章作成能力を身につけます。
3. 課題解決能力：技術的な課題を、安全や環境に配慮するなど、限られた条件の下で設定・解決する能力を身につけている。また、課題解決に向けて、互いに協力して仕事をする能力を身につけます。また、課題解決に向けて、互いに協力して仕事をする能力を身につけます。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html>)

(概要)

生物資源学部は、責任ある社会人として必要な教養と倫理観を身につけるとともに、価値観のゆらぐ現代社会において変化するものとしなないものを見極め、現象の本質に科学的に迫り、生物資源にかかわる諸問題、特に持続可能な社会の構築に関して、最新の専門知識と先端技術を用い適切な対処ができる人材を育成します。そのための教育を行う方針を次のように定めます。

生物資源学科

ディプロマポリシーで掲げた人材育成のために、以下の科目を配置します。

1. 倫理観・社会性：基礎的な教養と語学力を養うための全学共通科目を重点的に配置する。また、読解力や科学的な作文能力を養うため、論理的・科学的思考を学ぶ科目（生物資源学概論 I）を配当します。また、生物資源の利用に関わる倫理観や社会性を養うため、環境生物学、生態学 I、技術者倫理、地域生物生産実習、生物資源学概論 II などの専門科目を配当します。
2. 自然科学の基礎力：生物化学及び情報科学の幅広い知識と技術を学ぶため、導入的な科目（数学基礎、生物学 I, II、化学 I, II、物理学、統計学基礎）及びデータサイエンス基礎、情報科学を配当します。
3. 専門能力：生物資源の資源採取・加工・利用や環境保全に関する専門知識およびそれを社会実装する上で必要な知識や技術を身につけるため、生物物理化学、分析化学、有機化学、生体高分子化学、栄養化学など化学的素養を習得する科目群と、生化学 I、II、微生物学、植物病理学、植物生理学 I、II、遺伝学 I、II などの生物学的素養を習得する科目群を配当します。
4. 情報活用力：デジタル技術を用いて必要な情報を収集する能力を養うため、情報科学、情報生物学などの情報系科目群を配当する。また、国外への情報発信力を養うため、専門的な英語科目（英語発展 I、英語発展 II、科学英語）を配当します。
5. 課題解決能力：自ら必要な情報を収集し課題を解決する能力、論理的な報告書が作成できる能力を育成するため、生物学実験、化学実験、生物化学実験、応用生物学実験、応用生化学実験、生物活性分子化学実験、植物分子生物学実験、植物資源学実験、専門基礎研究を配当します。また、卒業論文およびグループワークによる専攻演習を通じて、自然科学およびデジタル技術の基礎力に裏付けされた情報収集能力、コミュニケーション能力、課題解決能力、文書作成能力等を総合し、自然との共存を図りながら互いに協力して社会の諸問題を解決する能力を育成します。

本学科では、全学共通科目、専門科目を体系的に編成している。カリキュラムの体系性については、カリキュラムツリーに示します。また、各科目の学修成果の評価は、科目ごとにその方法を設定し、シラバスに明示します。

創造農学科

ディプロマポリシーで掲げる人材育成を達成するために、一般教育科目、専門科目を体系的かつ適切に編成しています。

1. 1年次では、多面的で柔軟な思考に基づく教養と語学力を養うために、一般教育科目を配置します。さらに、体験を通じた自主的な学びを重視し、専門にかかわる体験学習を1年次からスタートします。外部講師の講義や見学学習も配置し、2年次以降の実践教育への準備を行います。
2. 2年次以降は、農業法人・民間企業、生産者、6次産業者、公設試験研究機関等との関係を密にし、実践者や研究者を招き、または出向いて地域性の高い課題からグローバルな課題の実践教育を行うため、体験を通じて持つ知的好奇心や知識欲に応えうる広範囲な講義を配置し、食・農・環境に関する広範囲な講義に加え、さらに体験学習を強化するとともに、グリーンデジタル、6次産業化の強化、科目履修生の教育強化、食proの資格要件を満たす科目を配置します。全ての講義、演習、実習を通して、自ら必要な情報を収集し課題を解決する能力、論理的な報告書が作成できる能力を育成します。未知の問題を解決する能力の育成のために、少人数教育による卒業研究を実施します。また、学生の希望により、学外における卒業研究も可能とします。生物資源学部は、卒業研究を4年間の集大成として位置付けます。

学修成果の評価は、科目ごとにその方法を設定し、シラバスに明示します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html>
入学者募集要項等、大学案内）

（概要）

生物資源学部の教育目標に従い、求める学生像や、大学入学までに身につけておくべき教科と科目に関して、次のように定めます。

生物資源学科

微生物から高等動植物まで多様な生物に興味と関心を持ち、分子から生物、さらに生態系にまで及ぶ広範な対象を取り扱う科学分野の勉学に強い探究心を持って取り組むことができる学生を求めます。生物資源にかかわる知識と技術を携え、自分の考えをまわりのひとに的確に伝えることができ、将来にわたって主体的に活動する意欲と希望を持った学生が望まれます。

生物資源学を大学で学ぶためには、高等学校等において、国語、英語、数学、生物、化学の基礎学力の習得が必要です。

創造農学科

「食と農と環境」に興味と関心を持つとともに、これに関連する様々な体験をしたいという意志があり、将来、農業、食品業などの関連する分野で活躍し、地域資源の最大活用、脱炭素化、労力軽減・生産性向上などのイノベーション推進に貢献しようという意欲と希望を持つ学生を求めます。

創造農学科で学ぶためには、高等学校等における幅広い基礎学力が必要です。さらに、自分の考えを自分の言葉で表現でき、他者と適切にコミュニケーションがとれるよう努力することが重要です。

学部等名 海洋生物資源学部

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html>
入学者募集要項等）

(概要) 海洋生物資源学部は、海洋生物資源にかかわる諸領域での教育・研究活動を通じて、時代の進展に即応した学術文化の高度化の推進、自主的な真理探究の精神と広い視野および豊かな創造力を有し専門的な知識と技術を備えた実践力ある人材の育成、および地域社会への学術情報開放の推進を目的としています。これにより、地域社会、日本および環日本海地域はもとより、世界の産業と文化の発展に寄与し、もって人類の将来にわたる福祉の向上に貢献することを目指しています。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html)
(概要) カリキュラムポリシーに基づく教育課程を履修し、所定の単位を修得した学生に対して、次の基準に照らして学士の学位を授与します。 1. 自然と社会の共存にかかわる課題を多面的に考察し、適切に対処するための方策を立案できる。 2. 科学・技術の進歩の中で、絶えず新たな知識と技術の修得に努め、問題の適切な解決方法を選択して実践できる。 3. 社会のニーズに応えながら、新たな価値を創造して持続的な成長につなげることができる。 4. 地域・国際社会の一員として責任感を持って他者と協働しながら、豊かな人間性を醸成できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html)
(概要) 教育目標に掲げる能力を身につけるため、日本海沿岸特有の地域性を踏まえた特色あるカリキュラムを次の方針に基づいて編成しています。 1. 世界と地域の歴史や文化あるいは経済や社会の課題を多面的に考える能力を身につけるため、一般教育科目を配置する。 2. 初年次において、大学での学修スキルと自主的な課題探究姿勢を身につけることを目的として「海洋生物資源学フィールド演習」を開講するとともに、専門科目の修得に必要なとなる数学と自然科学の基礎学力を向上させるための専門基礎科目を配置する。 3. 2年次において、海洋生物資源学を体系的に学修するための基礎となる専門応用科目（必修科目）を集中的に配置する。さらに、特定の専門領域に偏らずに、海洋環境の保全、海洋生物資源の育成と利用およびそれらの社会科学基盤について学際的・総合的に学ぶことができるように、2年次から3年次にかけて専門応用科目（選択科目）を配置する。 4. 講義を通して修得した知識を応用する能力を身につけるため、実験・実習科目を配置する。特に、豊かな自然と文化に恵まれた若狭地域をモデルとして、山川里海の相互関係や科学・技術が地域に果たす役割を体験を通して理解するための科目を開講する。 5. 4年次に各研究室に所属して取り組む「卒業論文」と「専攻演習」では、担当教員の個別指導を通して、計画を作成して実践する能力と結果を検証して発表する能力を身につける。科目毎に成績評価の方法を設定し、シラバスに明示する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html 入学者募集要項等、大学案内）
(概要) 教育目的を達成するため、海洋生物資源学部は次のような学生の入学を求めています。 1. 海洋環境や海洋生物資源を取り巻く様々な問題に強い関心を持ち、科学・技術を通してその解決に貢献する意欲を有する学生 2. 海洋生物資源学を学ぶために必要となる理科、数学および英語などの基礎学力を有し、自主的な学習習慣を身につけている学生 3. 他者と協力しながら学ぶためのコミュニケーション能力を身につけている学生

学部等名 看護福祉学部
教育研究上の目的（公表方法： http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html 入学者募集要項等）
（概要） 看護福祉学部では、人権尊重と擁護を根幹とするヒューマンケアの理念に基づき、専門的知識・技術の開発にかかわる研究を推進します。さらに、社会情勢の変化に伴う課題への実践的な取り組みを通して、人々の健康的な生活の創造に寄与します。教育においては、個性豊かで創造的な人間性を育むとともに、看護および社会福祉の専門的知識と技術および倫理観に裏付けられた実践力を持って、人々の健康と福祉の向上に貢献できる人材を育成する。さらに社会およびその時々個人のニーズに応じた高度なサービスを普遍的に提供するために、専門職として自己研鑽を積むことができる人材を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html ）
（概要） 看護福祉学部で4年以上在学し、次に示す資質、知識や能力を培い、卒業に必要な所定の単位数以上を修得した者に学位を授与します。 看護学科 1. 全人的教養を身につけ、生命の尊厳、人権擁護の立場から高い倫理観を備え人々の健康生活を支援できる力を有する。 2. 人々を全人的に理解するための感性と基本的な知識、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を持ち、個人・家族・地域社会との豊かな関わりを持つことができる。 3. 科学に裏付けられた専門的知識と技術を身につけ、それらを統合して人々の個別性・多様性に応じた看護を主体的に創造できる。 4. 地域社会との連携を深め、個人および地域社会の多様なヘルスニーズに応じた看護を実践できる。 5. 時代の変化と国際的な視点を踏まえた新たな保健・医療・福祉の課題を把握し、多職種との連携・協働を図りながら課題に取り組む能力およびリーダーシップを発揮する能力を有する。 5. 自ら看護学を探究する態度を身につけ、将来にわたり専門職として看護学を発展させていくための研究が行える基礎能力を有する。 社会福祉学科 1. 人間の尊厳重視、人権擁護及び社会正義の立場から人々の生活を支援するための、全人的教養と普遍的な社会福祉の価値観、思想及び倫理観を有する。 2. 人々に共感するための感性と、人々の生活やその困難を環境との関連から理解するための思考力・判断力・表現力・創造力・コミュニケーション力を有する。 3. 科学に裏付けられた専門的な知識と方法を身につけ、それらを統合して人々の個別のニーズに応じた社会福祉に関する支援方法、サービスの開発、政策提言を主体的に考案できる能力を有する。 4. 時代の変化と国際的な視点を踏まえ、新たな福祉・保健・医療の課題を把握し、学際的な多職種連携を図りながら、個人、家族及び社会のニーズに応えられる基礎的な技術を有する。 5. 社会福祉学を探究する姿勢と態度を身につけ、専門職を目指して社会福祉を深化、発展させていくための研究が行える基礎能力を有する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html ）

(概要)

看護学科

看護学科はヒューマンケアの理念の下に、人々の健康生活を支援できる専門的人材を育成する教育課程が求められる。本教育課程では大学の理念、教育目標および看護福祉学部理念・目的、教育目標を実現するため、以下の6項目を教育課程の編成方針（CP;カリキュラム・ポリシー）として定め、体系的で適切な教育課程を編成する。

1. 全人的教養を身につけるため「一般教育科目」を初年次に配置する。
2. 看護と社会福祉それぞれの専門性と保健・医療・福祉の課題を理解するため、社会福祉学科との「共通関連科目」を1・2年次に配置する。
3. 専門基礎科目は、看護に必要な専門的知識を身につけるため、看護の対象である人々の「健康・疾病・障害の理解」と、人々が生活する「社会の理解」の科目で編成する。
4. 専門科目には、「看護の基礎」を基盤に、看護の対象の健康レベルや療養の場に対応した「看護の対象・場の理解と実践方法」と「看護の実践」を配置する。看護の基礎的な知識と技術を修得するとともに、多様な場で様々なライフサイクルと健康レベルの人々を対象に保健・医療および福祉職と連携や協働をしながら、個人と家族、地域社会のヘルスニーズに対応した看護を実践できる力を身につけられるように編成する。
5. 専門科目の「看護の発展」ではリーダーシップやマネジメント能力、研究の基礎能力、将来にわたり社会のヘルスニーズに対応した看護を発展させる能力を養う科目を段階的に学べるよう編成する。
6. 選択によって所定の科目を受講した者には保健師の国家試験受験資格、養護教諭一種免許の資格を得ることができるように科目を配置する。

(どのような教育方法を実施するか)

1. 少人数教育を通して、看護およびその対象である人間と生活に対する理解を深め、人々の多様なニーズに対応できる知識と技術を修得できるよう支援する。
2. 学修の過程において、学生が相互に思考を刺激しあえるよう、グループワークやディスカッションの機会を多く設ける。
3. 早期に人々が生活する地域に出向き、人々との関わり（コミュニケーション）を通して、人々の健康と生活（暮らし）、生活環境、地域社会とのつながりを理解できる授業を行う。
4. 情報通信技術（ICT）を活用した先端的な演習を通して、多様な事例から専門的知識と技術を修得できるよう支援する。
5. 保健師課程では事例を用いた演習を通して、地域の健康課題の予防や解決に必要な事業化や社会資源の開発、システム化・施策化能力を強化する。

(学習成果をどのように評価するか)

科目ごとに成績評価の方法を設定しシラバスに明示する。科目責任者である教員（シラバスの筆頭者）はシラバスに示した基準に基づき評価を行う。

社会福祉学科

社会福祉学科はソーシャルワークの原理、理論及び実践に基づき、人々が抱える生活課題に取り組み、ウェルビーイングを高めるために、人々や社会構造に働きかけることのできる専門的人材を育成する教育課程が求められる。本教育課程では大学の理念、教育目標及び看護福祉学部理念、目的及び教育目標を実現するため、以下の6項目を教育課程の編成方針（CP;カリキュラム・ポリシー）として定め、体系的で適切な教育課程を編成する。

1. 全人的教養を身につけるため「一般教育科目」を初年次に配置する。
2. 社会福祉と看護それぞれの専門性と福祉・保健・医療の課題を理解するため、看護学科との「共通関連科目」を1・2年次に配置する。
3. 社会福祉の基盤知識とソーシャルワークの価値や倫理の基礎を身につけるため、「専門科目」の中でも「社会福祉学概論」「社会理論と社会システム」「ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱ」などの基礎的科目を初年次に配置する。そして、地域社会で直面する多様な生活のしづらさと、それに直面する人々の回復や成長及び自立を目指す支援のあり方等を理解する

ため、「専門科目」の中でも「ソーシャルワーク論Ⅲ」「地域福祉論」「障害者福祉論」「高齢者福祉論」「精神保健福祉の原理」など社会福祉諸領域に関する科目を1・2年次に配置する。 4. 地域共生社会の実現に必要な個人、家族から地域社会までを通底した国内外のソーシャルワークに関する理論と実践を統合的に理解するため、「専門科目」の中でも「共生社会論」「社会的起業論」「保健医療と福祉」「社会福祉管理運営論」など実践展開力を養成する科目を3・4年次に配置する。 5. 「総合部門」では、ソーシャルワーク実践に求められるコーディネート能力やファシリテーション能力、研究の基礎能力など、人々の抱える生活課題を個人と社会との関係から捉える総合的な課題解決能力を養う科目を段階的に学べるよう編成する。 6. 所定の科目を受講した者には社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格、高等学校教諭一種免許状（福祉）の資格を得ることができるよう科目を配置する。 （どのような教育方法を実施するか） 1. 学生の個性豊かで創造的な人間性を育むため、さまざまな専門分野の教員による少人数方式で学修を支援する。 2. 学修の過程において、学生が相互に思考を刺激しあえるよう、グループワークやディスカッションの機会を多く設ける。 3. 地域に出向き、住民との双方向の対話（コミュニケーション）を通して、人々の暮らし、生活環境、地域社会とのつながりを理解できる授業を行う。 4. 情報通信技術（ICT）を活用した先端的な演習を通して、多様な事例から専門的知識と技術を修得できるよう支援する。 5. 専門職養成（社会福祉士・精神保健福祉士）に係る実習関連科目では、ソーシャルワーカーとして必要な価値規範や倫理を実践的に理解するとともに、支援の展開過程に用いられる知識や技術の基礎能力が獲得できるよう、地域の専門職・関係機関と連携して授業を行う。 （学習成果をどのように評価するか） 科目ごとに成績評価の方法を設定しシラバスに明示する。科目責任者である教員（シラバスの筆頭者）はシラバスに示した基準に基づき評価を行う。	入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html 入学者募集要項等、大学案内）
（概要） 看護学・社会福祉学は人々の健康と生活に直接かかわる学問です。看護福祉学部では、社会の動向や人間に関心を持てる人、他者の考えや独自性を尊重できる人、経験を通して自分自身を振り返ることができる人、さらに主体的に学修に取り組む熱意のある人の入学を求めます。高等学校においては、人々とのコミュニケーションに必要な国語や英語の基礎学力を高めること、さらに、社会、地域、人々の生活および人の身体やこころの仕組みを理解できるような科目を意識的に学修することを望んでいます。 【看護学科の求める学生像】 看護学科では主体的に学修に取り組む熱意のある人の入学を求める（主体性）。 1. 専門的知識と技術を学ぶための基礎学力を身につけている（知識、理解力）。 2. 社会の動向や人間に関心をもち、人々の保健・医療・福祉の発展に貢献したいという目的意識をもっている（関心、目的意識）。 3. 人としての基本的な倫理観を備え、他者の価値観・個性・多様性を尊重することができる（倫理観、協調性、判断力）。 4. 自分自身の行為・態度を振り返り自己を向上させることができる（思考力、表現力）。 【看護学科の入学前に学習しておくことが期待される内容】 高等学校段階までの国語、数学、英語 3 科目について基礎学力が幅広く十分身につけていることが必要です。そのうえで生物や倫理などの人を理解できるような科目を意識的に学修することを期待します。	

【社会福祉学科の求める学生像】

社会福祉学科では主体的に学修に取り組む熱意のある人の入学を求める（主体性）。

1. 社会福祉の理論や実践について学ぶための基礎学力を身につけている（知識、理解力）。
2. 社会の動向や人間に関心をもち、多様な人々が豊かに生活できる社会の実現に貢献したいという目的意識をもっている（関心、目的意識）。
3. 人としての基本的な倫理観を備え、他者の価値観・個性・多様性を尊重することができる（倫理観、協調性、判断力）。
4. 自分自身の行為・態度を振り返り自己を向上させることができる（思考力、表現力）。

【社会福祉学科の入学前に学習しておくことが期待される内容】

高等学校段階までの国語、英語 2 科目の基礎学力が幅広く十分に身につけていることが必要です。そのうえで、地域社会における人々の生活を理解できるような科目を意識的に学修することを期待します。

学部等名 恐竜学部

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html>
入学者募集要項等）

（概要）

恐竜学部は、福井県で蓄積された恐竜研究をさらに発展させ、地質学を含めた地球科学分野の教育・研究活動を通じ、現代社会の地球科学諸問題に対応するため、幅広い教養と地球科学に関する知識・技術を持ち、多様な局面において協働的および自主的に課題を探究・解決できる人材を育成するとともに、学術情報を地域社会へ積極的に開放することを目的とします。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：<http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html>）

（概要）

恐竜学部は、卒業に必要な所定の単位数以上を修得した学生に対して、次の基準に照らして学士（理学）の学位を授与します。

1. 地球科学をはじめとする自然科学分野のみならず、文理横断的な幅広い教養・視野を修得している。
2. 古生物学や地質学、古環境学、デジタル科学等の専門知識を身につけ、またそれらに関連する調査研究方法を修得している。
3. プレゼンテーションやディスカッション、フィールドワークを通して自身の理解を分かりやすく正確に伝えることができ、他者とコミュニケーションを取り協働することができる。
4. 迅速に発展するグローバル社会やデジタル社会に適応し、外国語やデジタル技術を地球科学諸問題の課題に適切に活用することができる。
5. 地球科学分野の中でも恐竜を含む古生物学・地質学において自ら問題意識をもち、研究に取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html>）

（概要）

ディプロマポリシーに掲げた資質・学力を身に付けた人材を育成するため、以下のとおりカリキュラムポリシーを定めます。

1. 1 年次は、多様な一般教育科目と地球科学の基礎を学び、文理横断的に幅広い知識をもった豊かな人間性を育成し、多面的に考え行動できる能力を身に付ける。
2. 2 年次は、恐竜をはじめとした古生物学や地質学・古環境学に関する専門基礎科目を中心に学び、専門基礎知識と調査研究手法を修得する。

3. 3年次には2つのコース（恐竜・古生物コース、地質・古環境コース）に分かれて、より少人数で専門応用科目を学ぶ。少人数での実験・実習を通して、より高度な専門知識・技術を学ぶとともに、表現力・思考力・コミュニケーション力を修得する。また、1年次から3年次にかけて県内外において実施されるフィールドワーク（地球科学フィールド実習Ⅰ・Ⅱ、地球科学フィールド研究等）では、協働的な活動を通じて課題・目標を共有し、相互の理解を深めながら問題解決に取り組む。
4. 一般教育科目で学ぶ英語A～Dに加えて、2年次に開講される科学英語を通して、論文を読んで研究を行う上で不可欠となる英語を学ぶ。また、恐竜学特論等では、外国人研究者による講義を行う機会を設けて、国際的コミュニケーション能力、視野、研究の国際性を身につける。デジタル技術については、2年次に開講されるデジタル古生物学概論と同研究法実習等を通じて古生物学や地質学に関連したデジタル技術を修得する。
5. 3年次前期までに修得した専門知識・技術を基に、より関心の高い専門分野を選定し、3年次後期に研究室に配属する。各コースの課題演習を通じて、卒業研究に向けて具体的な研究テーマを選定する。4年次には、卒業研究における担当教員の個別指導を通して、研究計画を実践し、研究結果を執筆・発表する能力を身につける。
6. 学修成果は、各授業科目のシラバスに示した授業の到達目標に応ずる到達度の評価方法・基準に従い、試験、実験、実習、論文、レポート等によって、到達目標と達成度に応じた厳格な成績評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html>
入学者募集要項等、大学案内）

（概要）

教育目的を達成するため、恐竜学部は次のような学生の入学を求めています。

1. 自然科学に興味を持ち、これに関する研究分野におけるフィールド活動に関心・意欲がある。
2. 多様な自然界の現象に対して科学的探究心を持ち、課題解決に向けて自分の意見を表現できる。
3. 自然科学を学ぶ上での理科・数学および国際化・情報化社会に対応するための外国語・情報科学の基礎を身につけている。
4. 積極的かつ自主的な学習姿勢を持ち、他者との協働作業などを意欲的に取り組むことができる。

【入学者選抜の基本方針】

恐竜学部では、アドミッション・ポリシーで示した能力を考査して入学者を選抜するために、大学入学共通テストと個別学力検査を組み合わせた一般選抜のほか、学校推薦型選抜、総合型選抜を実施します。それぞれの選抜方法において、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持ち、多様な人々と協働して学ぶ態度」を判断していきます。

<一般選抜>

入学者の選抜は、大学入学共通テストおよび個別学力検査等の成績ならびに調査書の内容を総合して行います。

大学入学共通テストで課している教科・科目について、高等学校での履修内容を十分に理解できているかを評価します。個別学力検査では、専門科目の学習に必要な知識、思考力、判断力、表現力を評価します。また、調査書により主体性、協働性を評価します。

<学校推薦型選抜>

入学者の選抜は、小論文および面接ならびに調査書および自己推薦書の内容を総合して行います。

学部の理念や教育目標に沿った小論文を課し、専門分野の学習に必要な知識、思考力、判断力、表現力を評価します。面接試験において、目的意識や意欲、本学志望の動機、高等学校や地域などでの主体的・協働的な活動を総合的に評価します。

<総合型選抜>

入学者の選抜は、プレゼンテーションおよび面接ならびに調査書および自己推薦書の内容を総合して行います。

プレゼンテーションおよび面接では、知識、思考力、判断力、表現力、協働性ならびにコミュニケーション能力を評価するために、科学的かつ論理的な考え方、大学での学業への意欲と大学で学んだことを将来どのように活用して社会貢献したいかなどを確認します。

学部等名 地域政策学部

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html>
入学者募集要項等）

（概要）

地域政策学部は、経済・経営の基礎理論や産業立地や地域経済に関する専門的知識の理解を促すとともに、そうした知識の地域現場での適応力の育成に努めることにより、地域産業の高度化やグローバル化、新たな産業や企業の創出、持続可能な地域社会の構築に貢献し、地域独自のイノベーションをもたらす主体性と実行力を身につけたリーダー的人材を養成することを目的とします。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：<http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html>）

（概要）

地域政策学部は、経済学科または経営学科に4年以上在学し、以下に示す資質、知識および能力を培い、卒業に必要な所定の単位数以上を修得した学生に学位を授与します。

1. 経済や経営の基礎理論を学ぶとともに、産業立地や地域経済に関する専門的知識を身につけ、日本や世界の諸地域の事情を知り、地域産業のイノベーションを惹起し、地域社会の変革を牽引する上で必要となる豊富な知識を修得する。
2. 地域データ分析における最先端の技術を学び、フィールドワークを通じて現実の地域社会を分析する能力を鍛え、自らの考えを論理的に表現し議論するための対話能力と文章作成能力を身につける。
3. 地域の課題を自ら見出し、課題解決に向けて、互いに協力して政策を立案し、その実現をめざして、地域の自治体や企業、住民の方々と協働する能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html>）

（概要）

地域政策学部では、地域の問題を発見し、地域データの分析や現地調査を実施し、政策立案を行う力、プレゼンテーション力、組織的行動力、社会的責任力といった諸能力から構成される地域リーダーとしての資質を養うことを目標としています。このような教育を実現するために、次のような方針でカリキュラムを編成しています。

1. 経済学の基礎や地域イノベーション入門などの専門基礎科目から、経済地理学、空間経済学、地域環境論、海外地域研究などの地域・空間に関わる専門応用科目・専門発展科目などの演習科目へと、地域政策に関する専門的知識を体系的に学べるように科目群を配置します。
2. 1年次には、外国語能力と情報リテラシーを確かにするために、英語と情報の科目、人文・社会科学、自然科学を幅広く学ぶ共通教育科目に加えて、経済学の基礎、経済統計などの専門科目を配置します。
3. 地域イノベーション学科の下に、学生の卒業後の主な進路を想定して、地域産業、地域創造、地域づくりの3つのユニットを置きます。2年次以降は、全学生がいずれかのユニットに所属し、専門の講義、地域データ分析や実践英語、フィールドワークを受講するとともに、演習Ⅰ、演習Ⅱ、演習Ⅲ、演習Ⅳ、卒業研究を通して、それぞれのユニットを担当する教員の指導を受けるなど、一貫した少人数教育を実施します。
4. 各ユニットとも、「ユニットコア科目」、「ユニット発展科目」の2つの科目群からカ

リキュラムを構成し、専門性を高めると同時に、専門に関連する幅広い分野の科目を履修できるようにしています。また、地域の経済界、自治体等の方々と連携しながら、講義や演習を行い、実践的に地域の課題解決に取り組みます。 5. 1年次の初年次ゼミで、地域分析の方法を学ぶとともに、2年次の地域フィールド演習Ⅰでは、福井県内の特定の自治体を対象地域にして、グループに分かれて調査を実施し、報告書を作成します。3年次以降は、希望者のみになりますが、地域フィールド演習Ⅱでは、国内の県外地域、地域フィールド演習Ⅲでは、海外を対象地域として実施し、フィールドワークを行う力量を高めます。 6. 学修成果は、各授業科目のシラバスに示した授業の到達目標に応ずる到達度の評価方法・基準に従い、試験、実験、実習、論文、レポート等によって、到達目標と達成度に応じた厳格な成績評価を行います。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.fpu.ac.jp/about/goal.html 入学者募集要項等、大学案内）
（概要） 教育目的を達成するため、地域政策学部は次のような学生の入学を求めています。 1. 高等学校で英語、国語の基礎学力に加え、数学・理科・地理歴史・公民・情報等の幅広い基礎学力を身に付けている学生 2. 自分の考えを自分の言葉で表現できる学生 3. 地域の課題解決に興味や関心を持つ学生 4. 多種多様な人々と適切なコミュニケーションを図りながら、主体性を持って学修に取り組むことができる学生

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： http://www.fpu.ac.jp/about/organizational.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
経済学部 経済・経営学研究科	—	14人	9人	人	3人	人	26人
生物資源学部 生物資源学研究科	—	15人	16人	人	1人	人	32人
海洋生物資源学部 生物資源学研究科	—	17人	11人	人	2人	人	30人
看護福祉学部 看護福祉学研究科 健康生活科学研究科	—	22人	8人	人	14人	人	44人
恐竜学部	—	11人	5人	人	2人	人	18人
地域政策学部	—	10人	6人	人	人	人	16人
地域経済研究所	—	1人	人	人	人	人	1人

情報センター	－	1人	3人	人	1人	人	5人
国際センター	－	2人	4人	人	人	人	6人
地域連携センター	－	3人	人	人	人	人	3人
共通教育センター	－	4人	3人	人	人	人	7人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		0人					0人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： http://www.fpu.ac.jp/kanri/list-sections/index.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教育研究委員会にF D部会を設置し、授業評価アンケートに基づく授業改善、F D研修会の実施、F D報告書の作成など全学的な取り組みを実施。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経済学部	160人	176人	110.0%	760人	877人	115.4%	人	人
生物資源学部	80人	87人	108.8%	310人	337人	108.7%	5人	2人
海洋生物資源学部	80人	86人	107.5%	320人	349人	109.1%	人	人
看護福祉学部	80人	88人	110.0%	320人	349人	109.1%	人	人
恐竜学部	30人	34人	113.3%	60人	68人	113.3%	人	人
地域政策学部	70人	74人	105.7%	70人	74人	105.7%	人	人
合計	500人	545人	109.0%	1,840人	2,054人	111.6%	5人	2人
（備考）								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経済学部	220人 (100%)	4人 (1.8%)	209人 (95.0%)	7人 (3.2%)
生物資源学部	75人 (100%)	10人 (13.3%)	63人 (84.0%)	2人 (2.7%)
海洋生物資源学部	79人 (100%)	20人 (25.3%)	57人 (72.2%)	2人 (2.5%)
看護福祉学部	90人 (100%)	0人 (0.0%)	90人 (100.0%)	0人 (0.0%)
合計	464人 (100%)	34人 (7.3%)	419人 (90.3%)	11人 (2.4%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)
(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
経済学部	231 人 (100%)	207 人 (89.6%)	18 人 (7.8%)	5 人 (2.2%)	1 人 (0.4%)
生物資源学部	76 人 (100%)	69 人 (90.8%)	3 人 (3.9%)	4 人 (5.3%)	人 (%)
海洋生物 資源学部	84 人 (100%)	75 人 (89.3%)	5 人 (6.0%)	4 人 (4.8%)	人 (%)
看護福祉学部	87 人 (100%)	85 人 (97.7%)	2 人 (2.3%)	人 (%)	人 (%)
合計	478 人 (100%)	436 人 (91.2%)	28 人 (5.9%)	13 人 (2.7%)	1 人 (0.2%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
- 教育研究委員会にて、シラバス作成ガイドラインを審議 10～11月 教員にシラバス作成依頼 2月上旬 シラバス作成期限 4月 大学ホームページに掲載

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

生物資源学部	生物資源学科	1 3 0 単位	有・無	年 50 単位未満
	創造農学科	1 2 4 単位	有・無	年 50 単位未満
海洋生物資源学部	海洋生物資源学科	1 2 4 単位	有・無	各学期 24 単位以下
	先端増養殖科学科	1 2 4 単位	有・無	各学期 24 単位以下
看護福祉学部	看護学科	1 3 0 単位	有・無	—
	社会福祉学科	1 2 4 単位	有・無	—
恐竜学部	恐竜・地質学科	1 2 4 単位	有・無	年 49 単位以下
地域政策学部	地域イノベーション学科	1 2 4 単位	有・無	年 50 単位未満
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページで公表

<http://www.fpu.ac.jp/access/index.html>

http://www.fpu.ac.jp/pamphlet/fpu_pamphlet.html

など

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
経済学部	経済学科	535,800 円	188,000 円 (県外者は 282,000 円)	4,660 円	※その他：学生保険
	経営学科			4,660 円	
生物資源学部	生物資源学科			4,660 円	
	創造農学科			4,660 円	
海洋生物資源学部	海洋生物資源学科			4,660 円	
	先端増養殖科学科			4,660 円	
看護福祉学部	看護学科			5,370 円	
	社会福祉学科			4,660 円	
恐竜学部	恐竜・地質学科			4,660 円	
地域政策学部	地域イノベーション学科			4,660 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 各学科の学年担任や相談担当の教員、および教育・学生支援部の職員により学生の修学を支援している。修学に関する相談や指導のほか、学生生活や授業料、奨学金などについて支援している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリアセンターを設置し、常駐する就職アドバイザーによるアドバイスや自己分析、進路調査、ガイダンス、セミナー、企業説明会などの機会と、学生に必要な具体的かつ有用な情報を提供し、就職活動を的確にバックアップしている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健・学生相談センター保健管理室を設置し、保健師が常駐している。毎年4、5月に健康診断を実施し、支援が必要な学生には、学校医の健診、カウンセラーによるカウンセリング等を実施している。診断結果により精密検査が必要な学生には医療機関への受診を指導している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：研究活動においては、研究発表会や公開講座、各種展示会への出展のほか、研究シーズ集の発行、大学ホームページで公表 http://www.fpu.ac.jp/about/disclosure.html
--